

デジタル時代の著作権協議会（CCD）
平成23年度第1回権利問題研究会・著作権ビジネス研究会合同研究会

議事要旨

日時：平成23年7月25日（月）14：00～16：00

場所：東京オペラシティタワー7階会議室

議題1：（講演）Digital Rights Permission Code（DRPC）関連現状報告

議題2：その他

議長：権利問題研究会主査・久保田裕 著作権ビジネス研究会主査・椎名和夫

記

本研究会は、久保田権利問題研究会主査と椎名著作権ビジネス研究会主査が共同で議長をつとめ進行された。議事に先立ち、両研究会が、本年度の検討を進めるにあたって不可欠とされる“円滑な著作権処理の方策に関する情報”を共有すべく、本年度の新たな試みとして合同での研究会が企画され、円滑な著作権処理の構築・稼動に関わっておられる方々に講演をお願いしたとの開催趣旨が告げられた。

議題1.（講演）Digital Rights Permission Code（DRPC）関連現状報告

講演は、権利問題研究会副主査である(株)電通プラットフォーム・ビジネス局長、飯田尚一氏先導のもとで進行された。まず、電通が1997年に考案したコンテンツの許諾コード方式であるDigital Rights Permission Code（DRPC）について、同社のプラットフォーム・ビジネス局部長、中西康浩氏より、配布資料にのっとり説明が行われた。DRMがコンテンツの安全性を技術的に保護するだけであるのに対し、DRPCはコンテンツの権利情報と許諾情報をメタデータとしてファイルに埋め込むことで、OSやDRM方式に関わりなく、権利が複雑に入り組むコンテンツの権利処理の円滑化をめざして開発に至った経緯などについて説明がなされた。このDRPCを利用したプラットフォームとして開発された「ROTA2U」が、あらたに配付された資料をもとに、(株)ミルモ代表取締役社長、横地俊哉氏から紹介された。ROTA2Uを利用することで、ニーズに応じ、フレキシブルにコンテンツ提供者・利用者双方の利便性を図る機能、課金機能などの説明に加え、将来の展望に言及がなされた。

飯田氏は、国際著作権法学会（ALAI）からの依頼を受け、去る7月1日に、ダブリンで開催されたALAI世界大会で、「DRPCの進捗について」の講演を行ったことから、その帰朝報告が行われた。この案件は、ALAI日本支部招聘のもとで、来年京都で開催されるALAI世界大会で、引き続き取り上げられる予定であることに言及がなされた。

講演後、他のプラットフォームとの比較における「ROTA2U」の特徴、海外での展開の可能性、将来の展望などについて、質疑応答がなされた。

議題2. その他

特段の検討事項はなし。

以上